

2020(令和2)年度 SD 研修「大学職員のためのインストラクショナルデザイン(ID)研修」 開催報告

日 時： 2021(令和3)年2月19日(金)13:00～17:00
26日(金)13:00～17:00(情報交換会 17:00～18:00)

会 場： オンライン(Zoom)

企 画 統 括： 浅田 晋太郎氏(研修部会推進委員会 委員長、大阪女学院大学 常務理事・事務局長)

企画コーディネーター： 清水 栄子氏(研修部会推進委員会 委員、追手門学院大学 基盤教育機構/教育開発センター 准教授)

講 師： 宮原 秀明氏(研修部会推進委員会 副委員長、大阪学院大学 大学事務長代理)

申 込 者 数： 13 大学・団体 27 名(うち会員外 5 大学・団体 8 名)

参 加 者 数： 13 大学・団体 24 名(うち会員外 5 大学・団体 8 名)

内 容 詳 細： 大学コンソーシアム大阪 HP 掲載の「シラバス」参照

実 施 結 果： 同上掲載の「PDF/参加者アンケート」参照

企 画 ・ 運 営： 大学コンソーシアム大阪 研修部会推進委員会

今年度の大学コンソーシアム大阪(以下、コンソ大阪という)の「SD 研修」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、オンライン(Zoom)で開催、2日間の連続プログラムとして実施した。

1 日目 2月19日(金)

冒頭にコーディネーターの清水氏より、推進委員長 浅田氏の紹介、また浅田氏より下記の開会挨拶と本研修の趣旨説明があった。

「従来の説明の仕方では今の学生に伝わっているかと感じる場合があります。以前インストラクショナルデザイン研修の基礎を受講し、様々な場面で活用できることを学んだことから、この研修を受講することで受講者の気づきとなり、普段の業務に反映されることを祈っています。」



浅田委員長



清水委員

続いて、講師より、講義資料に自身の姿を重ね合わせるといったオンラインツールの特性を生かした自己紹介が行われた。講義中は、チャットを活用し、双方向でリアルタイムでのやり取りが試みられた。

宮原 秀明

HIDEAKI MIYAHARA

大阪学院大学
専任講師

大阪府吹田市岸部西2-36-1
大阪学院大学
TEL: 06-6381-8434(代番)





宮原講師

大学コンソーシアム大阪 SD研修
大学職員のための
インストラクショナルデザイン (ID) 研修

「こんな教え方していませんか!？」

このプログラムでは大学職員である我々の業務に直結する形で「教え方」について共に学びます。



大阪学院大学 大学事務局 1階 (阪大・大谷) 総合文化センター 301号室 研修室

講義では、初めに受講者に業務中に実際に行っている、又は携わっている「教える」場面を思い出してもらい、Google フォームを使ってそれらを書き出した。

人はどのようにして新たなことを学ぶのか、その時頭の中ではどのようなことが起こるのかを確認した後に、ガニエの9教授事象を学んだ。その後、個人ワークとしてガニエの9教授事象に照らして「教える」場面で行うべきことを再度考えて書き出してもらい、次にペアワークを行い、それぞれの記載内容を相互に説明した。

その後、数名より全体に向けての発表があり、講師よりシェアされた内容に対するフィードバックが行われた。

アウトプットすることで学んだことが身についたかを確認するため、参加者が個々に業務の中でどのようにガニエの9教授事象を活用するのかを書き留めるワークを行い講義は終了した。

後日、宮原講師より、個々のワークに対するフィードバックが全員に対して行われた。

清水委員からは、本日の振り返りとして、「9教授事象を使うことが目的ではなく、相手にどう教えるかが目的であり、9教授事象を知ったうえでそれを意識しながら教えるのか、そうでないかによって違いが出てくる。次回までに業務の中でどう生かすことができるかを考えてもらいたい。」との言葉があった。



浅田委員長から閉会挨拶として、「受講者が熱心に受講しており、ありがたかった。次回も引き続き共に学びたい。」との言葉があり、第1日目の研修が終了した。



ゴールを共有する・今日やることを共有する

本日の目次

1. イントロダクション
2. ゴールを共有する・今日やることを共有する
3. 知っていること・行っていることを思い出す。
4. 新たに「ガニエの9教授事象」を学ぶ
5. 既知のことと新たに学んだことを結びつける
6. ワークでアウトプット (間違ってもいいんです)
7. フィードバック大会 (理解を深めましょう)
8. アウトプットで身についたか確認
9. 人は忘れるから問をあげてもう一度




2 日目の講義では、イントロダクションのアイスブレイクとして、エビングハウスの忘却曲線を引き合いに出し、1 週間前に学んだ「ガニエの9教授事象」を受講者がどの程度覚えているかという割合を調査する事から始めた。全員が正解し雰囲気も良くなり、これからの講義に集中してもらうよいきっかけとなった。その後、前回の復習のあと、PDCA を思い出しながら、インストラクショナルデザインの手順モデルである ADDIE モデルについて学んだ。「ADDIE モデル」の活用例として、現実起こりそうな課題「新任担当職員への担当業務指導」を例示し、具体的に Analyze(分析), Design(設計), Develop(開発), Implement(実施), Evaluate(評価) のスパイラルを常に改善しながら展開していくことを共に学び考えた。その後、ワークとして講義を基に「教える」ことを ADDIE モデルに沿って各自で考えた。最後に 2 日間の研修を振り返り、一人ずつ「職場に戻ったら〇〇します！」と宣言して講義が終了した。後日、宮原講師より、上記ワークに対するフィードバックが全員に対して行われた。

ゴールを共有する・今日やることを共有する

研修全体目標 (2 日間を通じて)

- (1) ID について自らの言葉で説明できる
- (2) 自らの日々の業務の中で ID を活用できる点を見つけ出すことができる。
- (3) 本プログラムで学んだことを基に、業務中での「ガニエの9教授事象」の活用例を挙げることでできる。
- (4) 本プログラムで学んだことを基に、業務中での「ADDIEモデルのプロセス」の活用例を挙げることでできる。
- (5) 研修参加に際して多様な考え方や経験を尊重し、参加者間で共に学びあう雰囲気に貢献することができる。



4. 例示 (例で考え学ぶ) 分析 (Analyze) ADDIEのA

何が問題なのかを明確にすることが分析です。誰のどのような問題を解決するのか？

・何をできるようにしてもらいたいのか？
 ↑この間にあるギャップを埋めるために「教える」
 ・今は何ができないのか？



大学事務局の広報課 4月の出来事:
 分析のためのインタビューやアンケートを行い、過去の研修事例など情報を収集して「教える」ことの目的や要件を確認しました。

遠坂(おれさか) 22歳です。入職したところです。ご迷惑をおかけするかと思いますが、頑張りますので、よろしくお願ひします。

長(こん) 28歳です。小売業販売職から転職して参りました。前職の知識や経験を活かしながら尽力いたします。ご指導をお願いします。

大学事務に関する知識が足りない。ITリテラシーが高い。マナー研修が必要。広報業務全般について知識が足りない。

大学事務に関する知識が足りない。ITリテラシーが足りない。マナー研修は不要。広報業務全般について知識が足りない。

清水委員より、受講者へ 2 日間にわたる受講と、宮原講師へ準備から講義後のフィードバックに対して感謝の意が表された。あわせて、「受講者が学んだだけでなく、業務の中でいかに実践していくかを考えたことは講師のねらいどおりとなり良かった。実践に移した結果について受講者からフィードバックがあれば嬉しい」との言葉があった。

浅田委員長からは、「オンラインで開催したが、参集して開催したものに近い研修ができたと思う。時代を担う職員同士がこの場で出会えたことが、それぞれにとって『勇気』となると考える。今後このような機会を設けるので、ぜひ引き続き参加いただきたい。また他の職員を誘っていただきたい。」との言葉があった。

最後に、受講者アンケートを実施し、2 日間にわたる研修を終了した。

続いて情報交換会が開催され、少人数のグループに分かれ講師や受講者間での活発な意見交換が行われた。

後日、受講者には「受講証明書」が配付された。